

トピックスN

新しいワクチンの国内導入

2009年10月16日に、ヒトパピローマウイルスワクチンと肺炎球菌7価結合型ワクチンの製造販売承認がなされた。接種開始の時期は明確に定められていないが、今後、国家検定を経て、

任意接種として国内で接種可能となる。

さらに、15年以上前から国内で接種可能であった肺炎球菌23価多糖体ワクチンは、これまで2回目の接種が禁忌であった。しかし、上記ワク

平成21年11月17日現在

*「接種回数」は、成人への接種回数に換算している。

【換算の前提】
1~6歳未満: 0.2ml × 2回接種、6~13歳未満: 0.3ml × 2回接種、13歳以上の中学生、高校生に相当する年齢の者: 0.5ml × 2回接種、それ以外の者: 0.5ml × 1回接種

単位 (成人換算)	10月		11月		12月			1月		2月		3月	年度内合計			
	前半		後半		前半		後半		前半		後半					
	万回分	万回	万回分	万回	万回分	万回	万回分	万回	万回分	万回	万回分	万回				
出荷予定期量	国産(10mLハイフル)	万回分	45	90	173	173	248	166	378					1,273		
	国産(1mlハイフル)	万回分	73	44	166	224	324	294	81	659	580	488	349	3,842		
	国産(0.5mlシリジン)	万本(万回分)			25	55		55		69	69			273		
	計	万回分	118	134	364	452	572	515	459	659	649	557	349	5,388		
な接量定	国産(月別)	万回分	—	118	134	364	452	572	515	459	659	649	557	349	560	5,388
一時可				118	252	616	1,068	1,640	2,155	2,814	3,273	3,922	4,478	4,827	5,388	
予防	国産(累計)	万回分														
1	インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者	100万人[1回目]		65万人[1回目]		10～15万程度/月(接種時期を鑑定しない)			※0.5mlシリジン(テメロルアブリドン)を用いて接種する方を約200万人と想定							
2	妊娠	65万人[1回目]		300万人[1回目]		10～15万程度/月(接種時期を鑑定しない)			※0.5mlシリジン(テメロルアブリドン)を用いて接種する方を約200万人と想定							
3	基礎疾患有する者 (最優先)	600万人[1回目]		200万人[2回目]		300万人[1回目]			※免疫力が衰え(低体温)した場合、接種する方を約200万人と想定							
	基礎疾患有する者 (その他)															
4	幼児(1歳～就学前)	600万人[1回目]		600万人[2回目]		350万人[1回目]			※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							
5	1歳未満の児の保護者及び優先接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等	350万人[1回目]		200万人[1回目]		350万人[2回目]			※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							
6	小学校高学年(相当する年齢)の者	350万人[1回目]		350万人[2回目]		350万人[1回目]			※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							
7	中学生(相当する年齢)の者					350万人[1回目]										
8	高校生(相当する年齢)の者					350万人[1回目]			※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							
9	高齢者(65歳以上)					約1,000万人分接種			※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							
		総ワクチン (未定)		約1,100万人分接種					※一部の小学校で接種対象外のうつ病・身体的理由により予防接種できない者の保護者等							

※製造計画や出荷数量等については、変動の可能性があります。12月下旬以降の出荷計画の具体的な数量は別途明示します。

※1月以降は従来10mlで製造予定としていたワクチンを1mlに切り替える予定です。

※輸入フク坦については、現在承認申請中であり、今後、長期的なケジュールを示す予定です。

■本スケジュールは各カテゴリの接種率が100%であることを前提としているため、前倒しする可能性があります。

※既に発症した方が接種を受けないことは考慮していません。(対象サービスランスに基づく第28週から第45週までの累積推計患者数は約700万人)

厚生労働省ホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakkou-kansenshou04/influvaccine.html> より

図2. 現時直でのパンデミック（H1N1）2009に対するインフルエンザワクチン標準的接種スケジュール（目安）

平成21年11月17日現在

チンの承認と同じ日に、必要性を慎重に考慮した上で、前回接種から十分な間隔を確保すれば再接種が可能との判断がなされた。

上記いずれのワクチンも、Hib ワクチンと同様に、定期予防接種化が期待されているワクチンである。

また、2009 年春に発生したパンデミック (H1N1) 2009 に対するインフルエンザワクチンは、従来の季節性インフルエンザワクチンと同じ製法により、国内で製造され、2009 年 10 月

から、国の事業として優先接種対象者から順番に接種が始まっている（図 2）。詳細は、厚生労働省のホームページ http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/inful_vaccine.html に掲載されているので参照して欲しい。今後は海外で製造された輸入ワクチンについても検討がなされる予定であるが、2009 年 11 月現在、国内製造以外の輸入インフルエンザワクチンは接種されていない。